

「PTR 国際テニスシンポジウム・2004」レポート

PTR インターナショナルクリニシャン・テスター

アト・イン桜テニススクール代表

鈴木 真一

今年で20周年を迎えた「PTR 国際テニスシンポジウム」と、賞金総額2万5000ドルのメンバーによるトーナメントが、52カ国から総勢900名の参加者と、70名強の講師陣を迎え、2月13日から一週間、本部のある南カロライナ州ヒルトンヘッドで開催されました。

今回の同行者は、期間中、バンダーミーア・テニスアカデミーでトレーニングを受けるジュニア2名（小学生と高校生）を含んで7名。成田からジョージア州アトランタに直行。入国はスムーズに行われましたが、周辺の悪天候で連絡便が2時間遅れ、ヒルトンヘッドへの到着は夜の11時近くになってしまいました。成田から、約19時間の旅でした。

会期中、シンポジウムの講習とは別料金で行われる「プロフェッショナル・ディベロップメント・プログラム」として、USTAのスポーツ科学コースの、スポーツ心理学、スポーツ医学、バイオメカニクス、栄養学、運動学習、生理学の各分野にわたる講習とテストが行われました。他には、ピート・コリンズの「サクセスフル・ダブルス」のオンコート講習。「ストリンギング実習」、「販売とテニスビジネス」、「テニスビジネス実践」、「車いすテニス指導」、「実践心理学」、「スポーツ救急法」、「チームコーチングとシングルの戦術」、「子供たちを楽しく指導する方法」、赤十字による「心肺蘇生法」が開催されました。

15日の日曜日には「PARADE OF NATIONS」という入場行進と開会式が行われ、本格的にイベント開始。参加者の代表として、私を含めた8名が民族衣装等で、それぞれの母国語で挨拶をしました。言葉は違えども、テニスを通じて、こんなに大きな輪が広がっているのだということを実感させられるイベントです。

前半は生憎雨にたたられましたが、オンコートの講習は、スタッフの緊密な連絡により、スケジュールを調整しながら、本部と、バンダーミーア・テニスのインドアコートを使って行われました。後半は好天が多くはなったものの、気温は低めでの推移でした。

シンポジウムは、前後3日も含めて、約70名の講師陣によりオンコートが35項目（内、5項目がプロフェッショナル・ディベロップメント・プログラム）、室内講義が41項目（内、10項目がプロフェッショナル・ディベロップメント・プログラム）という盛りだくさんのスケジュールでした。

先にご紹介した以外の講義のテーマを、以下に紹介します。また、いくつかの興味深い内容については、ご参考になるように簡単にまとめてみましたのでご覧ください。

【実技・講演テーマ】(太字は、レポートあり。一部、次号にて配布。)

「テニス：楽しくやろう」・「プレーヤーを次のレベルに引き上げるには」・「コートでの飲み物は、スポーツドリンクか？水か？その違いは？」・「地域社会とのつながり：スペシャル・オリンピックに参画しよう」・「今までの戦略や戦術の指導は効率的であったか？」・「シングルの戦術」・「ボスと上手につきあうには(Prince)」・「プレーヤー評価法(USTA)」・「2003年のUSオープン

の試合分析に見るコーチングの秘密」・「子供に楽しくテニスを紹介しよう」・「コーチの座談会」・「トッププレーヤーへのライブボルトレーニング」・「テニスを通じての人間形成」・「一面だけを使って、大勢を楽しく指導する方法」・「プロショップの収益を上げるには(TCA)」・「欠点の発見とその矯正(USTA)」・「感じて、行動する(PTRプロのための心理学)」・「成功するための指導法(Gamma)」・「競技に向けてプレーヤーのキャパシティを広げる(LGE Performance Systems)」・「テニス・ウェルカム・センターについて(USTA)」・「テニスの新市場開拓(USTA)」・「インタラクティブ・バックボードの活用法(Sportwall International)」・「戦略と戦術(USTA)」・「私が学んだこと(Jim Loehr・HEAD/Penn Racquet Sports)」・「みんなが動き、みんなが上達するドリル」・「静的柔軟性と動的柔軟性」・「能力のある子供を育てるには？技術・戦術・精神力の育成」・「より良いテニスのためのヨガ」・「よくある問題を直すために有効な10のドリル」・「国際共通のテニス評価基準(International Tennis Number/ITF)」・「求職・面接・契約(Wilson)」・「あなたの施設の維持と改良のための資金調達(Lee Tennis)」・「縄跳びを用いた体力づくり」・「現代のプレーヤーのストローク」・「メンバーからの10の代表的苦情」・「決断力をつけるドリル(TCA)」・「高校のテニスチームの不均衡」・「早くラリーができるようにするために」・「テニスにおける神話と誤解」・「あらゆるレベルに使えるドリルと技術」・「最少の時間で、最大の効果を」・「ラケットのカスタマイズで収益を(Gamma)」・「あらゆるレベルのプレーヤーに使えるドリルとゲーム(HEAD/Penn)」・「カレッジテニスのコーチング(ITA)」・「若いプレーヤーのゲームスタイル」・「チャリティーテニスの企画と運営」・「英国のアカデミーテニス」・「幼児のテニスの収益性」・「自分のゲームスタイルの確立」・「レッスンやプログラムの宣伝の画期的方法」・「ダブルスでよくある問題点」等。

このような盛りだくさんの内容で、コートとサロンで同時進行しています。一所でじっくり聞くのも、あちこちのぞき回るのも自由です。ジム・レーア博士等のビッグネームの講義は、さすがに満員の盛況です。

また、GAMMA 社主催の「プレーヤー歓迎パーティー」、世界レベルでの各種の表彰を行う「表彰晩餐会」、アメリカ国内レベルの表彰を行う「朝食会」、KAELIN 社のニュー・ラインアップの発表をする「ファッションショーとディナー」、HEAD 社主催の「トーナメント表彰と閉会式」といった、参加者の交流イベントも盛りだくさんです。

今回の晩餐会には、USTA の会長以下大勢の参加を得、両組織の緊密なつながりを実感させられました。晩餐会の歴史は20年前に遡り、当時の参加者は80名だったそうですが、今年には400名もの参加者があり、その内初参加者は50名前後もいて、組織としての活力を感じました。

期間中は、メンバーの家族や友人のためのテニスプログラムや子供のためのプログラム、ヒルトンヘッドや歴史の町サバンナの観光プログラムも企画されており、家族連れや、友人とのグループで楽しめるようになっています。あなたも、きっと有意義な体験ができるでしょう。